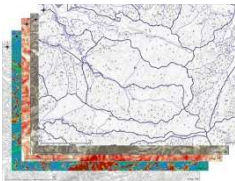
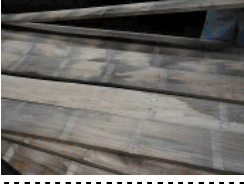


XII 令和8年度に行う試験研究課題と関連事業

資源循環利用による健全な森林育成、県産材の加工利用技術の開発等に関わる試験研究等を行う。

1 試験研究課題

試験研究項目・課題名	予算額 (千円)	財源	研究 期間	研 究 内 容
1 健全で豊かな森林づくりに関する研究				
(1) 持続可能な森林づくりのための適地適木マッピング判定技術の開発 	663	県	R8～R10	造林適地に関する既存の知見を航空レーザー測量成果やGISと組み合わせて「見える化」し、立地条件に応じた適切な樹種選定手法を提案する。
(2) 人工林の針広混交林化に向けた管理手法の確立 	749	県	R8～R12	人工林の内、生産林に適さない林分について、針広混交林化への管理手法を明らかにし、針広混交林化の施業方針の確立を目指す。
(3) 天然更新完了判定基準における短命な高木性先駆樹種の取扱いに関する研究 	350	県	R8～R12	高木性の先駆性樹種について土砂流出防備等の公益性を明らかにし、天然更新完了の選定基準に資する。
(4) 特定苗木による低コスト再造林の手法の確立 	1,102	県	R7～R11	特定苗木の本県の気象条件における成長状況及び特長が発揮される林分条件を明らかにし、低コスト再造林の手法を確立する。
(5) 多雪地帯における獣害防止に関する研究 ～耐雪性に優れた単木保護管と侵入防止柵の開発～ 	920	県	R7～R9	柵及び保護管を構成する各部材を柔軟性のある資材に置き換えて耐雪性を検討し、耐雪性に優れた獣害防止資材を開発する。
(6) 採種園等における種子採種開始日の見直しに向けた調査 	176	国 (受託)	R7～R11	近年の異常気象の影響で、種子の採種適期が異なってきていないか調査を行う。
小 計	3,960			

試験研究項目・課題名	予算額 (千円)	財源	研究 期間	研 究 内 容
2 県産材の利用拡大に関する研究				
(1) 県産材と県産木質材料を用いた新規構造体の開発に関する研究 	1,245	県	R8～R12	中大規模建築物への木材・木質材料の利用拡大を図るため、県産の製材品や、CLT、LVL、合板等の木質材料を用いた実大での構造体性能試験を行い、新しい木製構造体を開発する。
(2) 県産材における丸太段階での強度推定手法の開発 	946	県	R8～R10	製材前の丸太等を強度性能で選別するため、スマートフォンとフリーのソフトウェアを使った安価なシステムでの強度性能算定手法の開発を試みる。
(3) 県産広葉樹を使用した LVL の製造と性能に関する研究 	513	県	R7～R11	ナラ枯れ被害樹種や未利用広葉樹、早生樹について、単板性能や乾燥特性、接着性能、スギ・ヒノキ等との異樹種混合を含めた試作 LVL の強度性能等を明らかにする。
(4) 県産スギ大径材の製材や乾燥における品質の向上に関する研究 	636	県	R5～R9	スギ大径材の製材時の挽き曲がりや乾燥時の変形を抑制する手法を検討し、スギ大径材の利用促進を図る。
(5) CLTのラミナの乾燥品質向上に係る研究 	906	県	R4～R8	CLTを構成する素材であるラミナ(挽き板)の品質向上と県産 CLT の普及を拡大させるため、ラミナの乾燥技術の確立を図る。
小 計	4,246			
合 計	8,206			

2 関連事業

事業名	担当者
(1) 林木品種改良事業	玉木 操、柴田 寛、赤井広野
(2) 種苗安定生産対策事業	柴田 寛、玉木 操、赤井広野
(3) 森林病害虫等防除事業	矢部 浩
(4) 酸性雨モニタリング調査委託事業	矢部 浩

3 臨時的調査研究事業

生産現場の突発的な技術課題の解決、本格的な試験研究を実施する前の事前調査、研究素材の蓄積や研究員の資質向上等に必要試験研究を、迅速かつ柔軟に実施する。